巻頭特集 資源循環センター リサイクルの森

新たな可燃ごみ焼却施設がいよいよ本稼働！

毎日のように家庭から出る多くのごみ。それらが集められ、運び込まれる先が桑名市多度町力尾、東員町穴太にまたがって立地する「リサイクルの森」だ。普段、気にかけることはほとんどないものの、私たちの暮らしに欠かせない、ごみ処理施設について紹介しよう。

焼却施設が本稼働開始 新リサイクルの森誕生

「リサイクルの森」とは、桑名広域清掃事業組合（構成市町／桑名市・いなべ市・木曽岬町・東員町）が設置、管理するごみ処理施設の愛称をいう。親しみある施設にしたいと、公募により名づけられた。主に3つの施設で構成されており、安全・安定的なごみの中間処理を行っている。

「リサイクルプラザ」では不燃ごみ、粗大ごみを破砕し、鉄やアルミなどの資源を取り出している。取り出した資源はリサイクル工場へ運ばれ、再資源・再生品になる。

「プラスチック圧縮梱包施設」は、容器包装プラスチックを圧縮し、ブロック状に固める施設で、ブロックはリサイクル工場で再資源化される。

そして、敷地入口正面に建設された新「可燃ごみ焼却施設」。本稼働は1月からで、可燃ごみを安全・安定的に焼却処理する。三重県主体のRDF（固形燃料）発電事業の終了に伴い、従来のRDF化施設に変わり建設された。

余熱利用による発電 灰の100％資源化

新焼却施設建設にあたり、桑名広域清掃事業組合では「安全・安心で信頼される施設」「地球環境に配慮した施設」「未利用エネルギーの有効活用」「経済性に優れた施設」「地域に親しまれる施設」の5つの基本方針を打ち出した。整備運営事業代表企業である荏原環境プラント株式会社は、これらを踏まえた提案を行い、選定された。

同社が提案し設計・施工した焼却施設は、長期にわたり、安全で安定的なごみ処理が可能。焼却炉は2炉建設され、1日に174トン（1炉87トン）のごみを処理できる。ごみを燃やすときの廃熱は、発電に利用する。電気は施設で使用するほか、余剰電力は売電を行う。また、焼却灰は民間の工場に運ばれ、セメント原料として100％資源化する。

ごみは850℃以上の高温で焼却し、ダイオキシン類を分解。発生する有害な物質を含む排ガスは、集じん装置などの設備により、きれいにしてから外に出す。国や県で定められた基準値よりも厳しい自主基準を設け、常時監視するとともに、測定結果も公表する。

家庭での分別が大切 危険物混入が火災の原因に

新たな可燃ごみ焼却施設は、最新の設備を備えた施設であるが、安全なごみ処理のためには、家庭での正しい分別が大切となる。

「特に気をつけていただきたいのが、リチウムイオン電池。携帯電話など小型家電のバッテリーとしてよく使われていますが、誤って可燃ごみや不燃ごみに混ぜてしまうと、発火して火災となる恐れがあります。スプレー缶などもガスを使い切らないまま可燃ごみの袋に入れてしまうと火災につながります。ごみ収集車が火災になった例もあり、正しい分別にご協力をお願いいたします」と桑名広域清掃事業組合では呼びかけている。

分別で間違いやすいのは、容器包装プラスチック。製品や食品を包むプラスチック製の容器包装には「プラマーク」の表示があり、指定の袋に分別する。この袋には、バケツや文具などプラスチック製品を入れることはできない。容器包装でも汚れたものはリサイクルに適しておらず、家庭などでの協力が重要だ。

また「リサイクルの森」では、ペットボトルの処理は行っていないが、毎日多くのペットボトルが混ざっている。それらは手作業で取り除かれており、各家庭に配布された『ごみの出し方ハンドブック』を見直すなど、ごみの分別に気をつけたい。

ごみと環境について 体験しながら学べる施設

ごみ処理施設は、私たちが清潔に気持ちよく暮らすために必要不可欠な施設だが、マイナスなイメージもつきまとい、「迷惑施設」ともいわれる。

「リサイクルの森」では、そうしたイメージを払拭しつつ、ごみ処理や3Rについて学んだり、一緒に考えたりしてもらえるよう、見学ツアーや体験学習などを実施していく。見学ツアーは約90分で、専属のコンシェルジュが案内役を務める。マスコットキャラクター「モフリン」も登場し、実際のごみ処理の様子を見たりしながら、ごみ処理のしくみなどをわかりやすく解説してくれる。廃材アート作品や展示パネルの設置もある。

また、地域性をいかしたイベントや企画展示を通じて、環境にやさしく、ごみを減らす暮らしについての周知に努めていきたいという。ホームページでは施設運営の状況やイベント情報、ごみ処理情報を発信するほか、「バーチャル施設見学」や「キッズページ」など楽しく学べるコンテンツも提供する。

組合は、可燃ごみ焼却施設の建設中、2度の工事現場見学会を開催した。開かれたごみ処理施設として、建設の様子を住民に公開し、いずれも好評だった。1月26日には、完成見学会を開催する。この機会に新たなごみ処理施設を体験してみてはいかが。

「リサイクルの森」のマスコットキャラクター「モフリン」。森の仲間たちといっしょに、見学ツアーの案内役として活躍

新しく建設された「可燃ごみ焼却施設」。6階建ての施設で、煙突の高さは59メートル。「ときがら茶」など、日本の伝統色を基調にしたアースカラーの外観が目をひく

上）ガラス越しに煙突（内筒）が見学できる。焼却炉は2炉あり、煙突もそれぞれにあるため、2本ある　中）焼却炉室に、幅約22メートルのスクリーンが設置された「天空シアター」。映像でストーカ式焼却炉のしくみなどを学べる　下）渡り廊下の一部では、ブラックライトで浮かびあがる幻想的なアートも楽しめる

2019年8月に開催された「工事現場見学会」の様子。プラットホームのごみの投入扉前で、係員から説明を受ける見学者たち

コンシェルジュ 佐久間まゆみさん　コンシェルジュ 水谷美津子さん

「リサイクルの森」の顔として、施設案内や情報発信に頑張っていくと意気込む※見学ツアーは2020年1月以降予約受付を開始予定

information

資源循環センター「リサイクルの森」

住所 桑名市多度町力尾字沢地4028
電話 0594-31-8880
https://www.kwes-ebara.com

可燃ごみ焼却施設　完成見学会

日時 1月26日（日）計3回実施
（第1部10:00～、第2部13:00～、第3部15:00～。各1時間半程度）

集合場所 管理棟1階ロビー

定員 各部50名（先着順）小学生以下は保護者同伴

申込期間 1月6日（月）～14日（火）17時

申込方法
代表者の氏名・郵便番号・住所・連絡先、参加人数、年齢（全員）、希望する部（第1～3希望）を記入のうえ、桑名広域清掃事業組合（事務局建設係）まで。
Fax（0594-31-1032）、e-mail（kseisom@city.kuwana.mie.jp）、郵送、窓口持参のいずれかで申込。
組合ホームページ（http://www.recycle-mori.jp/）から申込用紙がダウンロード可能

問い合わせはこちら！
☎0594-31-1031
（桑名広域清掃事業組合事務局建設係）

文／長屋整徳　写真／桑名広域清掃事業組合　デザイン／chica